

第 5 回御嵩町総合計画審議会
実施報告書（議事録）

平成 27 年 12 月
御嵩町総合計画審議会事務局
（御嵩町企画課）

けの規模の町でこれだけの人々が活躍されているのは、すごい町、御嵩町のお力があると思います。

みなさんのご活動を町のまちづくり全体にどう生かしていくのか、具体的な指針づくりがこれからの課題と思います。それを後押しする総合計画ができればと改めて感じました。

今日は、基本構想が具体的に示されましたので、内容を固めていきたいと思います。忌憚のないご意見をお願いいたします。

○各務企画課長

(本日の資料の確認)

これより議事にそって進めたいと思います。横山会長、よろしくをお願いいたします。

3. 議事・意見交換

○横山会長

それでは最初に基本構想案について、事務局からご説明をお願いします。

(1) 第五次総合計画 基本構想(案)について、基本計画(素案)について

○川上企画調整係主任

(資料1、資料2について説明)

○横山会長

それでは、委員の皆さんから順番にご意見をいただきたい。だいたい項目は意見を踏まえられていると思うが、付け加えるのが良いこと、修正するのが良いことについてご意見をいただきたい。

私から、たとえば、34、35ページに協働のまちづくりが示されている。協働についても、このカッコ書きで挙げられているものは、今までもあったことである。あまり、変わり映えがしない。協働を今後、推進するためにはどうしたらよいのか、もう一步踏み込んだキーワードが出てきても良い。

たとえば、協働の指針づくり、ビジョンやシステムをきちんと定める。それに対する支援制度、市民からの発案への補助や、行政がこういうことをしてほしいと先に示して団体に手を挙げていただく方法もある。少なくとも協働活動に対する支援制度の検討、協働のしくみづくりの検討について示す必要がある。

同じように、行財政計画のことで、これから公共施設の合理化も大きな課題となってくる。一番重要になってくるのが、公民連携、古くはPFI、指定管理者制度、業務委託、あるいは公と民の連携、「PPP」が重要になっている。新しいキーワードがこの総合計画の中でも出て良いのではないか。

では順番で、水野委員から。

○水野委員

作成されたマップは素晴らしい。参加のまちづくりは町民がどう参加するかということになるかと思う。町民がどこまで行政と協力しながらまちづくりができるか。まちづくりは行政から委託された団体でしかできないのかという疑問を持っている。具体的に、笑顔で、町民が互いに支えあって喜びあえるような町というのが、なかなか浮かんでこない。

バイパスもできるなど、時代が変わっていくと活気ができ、衰退していく地域もある。町の活

気を出そうとするとNPOや団体をつくりあげていく必要性を感じている。NPOやまちづくり株式会社は、町民のみではなかなか立ち上げることはできない。4地区ある中、一つずつぐらいはNPOかまちづくり株式会社を立ち上げていかないと、横のつながり、協働まちづくりが出てこない。伏見から上之郷を見ると、経済、人口は西高東低である。上之郷の人口は増えない。地域格差について、行政と住民がタッグを組んで、町内が平均的に人口増加すると良い。

もうひとつ、御嵩町には小児科がない。子どもを育てるには、小児科と産婦人科がないと、安心して移住できないと聞いた。このことを入れてほしい。

○横山会長

協働の関係では中間支援、協働を担う団体の育成、ほかには地域格差の問題、医療関係のご意見がありました。大事な視点である。

○谷口清委員

きれいにまとめていただいた。参加のまちづくりから協働がキーワードでうたっているのにもかかわらず、その手法については示されていないと感じた。協働が問題解決の目玉であるならば、どうやって実現していくのか。地域とこういう形で進めていくというものがあれば、見えやすい形になる。私たちもこうしていこうとイメージが付きやすい。

○田中尚委員

協働は町民がボランティアとして参加することであると解釈している。いろんな団体でボランティアを理解する人が増えているが、会合を重ねる度に参加者も減り、形だけの行事になっている。協働ということで、町民の考えているビジョンと、行政の考えているビジョンが若干違うのではないかとということで、だんだん参加が減るという気がする。形だけ会合を開けば良いのではと町がとらえている感じもあるので、もう少し魅力をもった協働の取組みにしてほしい。

○横山会長

ボランティアは無償で奉仕しなければならない状況であった。しかし、地域の皆さんが疲弊されており、担い手確保も難しい。ボランティアだけで、これからは活動を維持できるのかは難しい。公民連携は、民間の事業者は自分たちの意見を交えて社会貢献をすることも含まれる。善意だけではないきちんとした協働のしくみをつくっていかないと、有志のみの参加では活動が難しい。多くの自治体で出てきている問題である。

○田中絹委員

みんなが支えあうまち、暮らしを支えるに示されている防災体制は人との絆が必要である。新興住宅の人と昔から暮らしている人との温度差はものすごく感じる。今の人達は有償ボランティアが当たり前という感覚である。ボランティアに私が参加してもどこへ行っても同じメンバーで、だんだん高齢化していくので、その先はどうしていくのか。また、若いお母さんから聞いていると小児科はすごく関心が高い。

○草田委員

子供会に関しては、JFCなどのボランティア活動をしている中学生、高校生もいるが、そういう人が活躍できる場がない。ボランティアはなかなか浸透していかない。中高生でボランティアをやりたいという子供がいるのは確かである。ボランティアをどうやって活躍させていくのか。小中学生が活躍できる場があると良い。

健康に関して、スポーツ少年団の役員をやっているが、スポーツ少年団に入ってくれる子どもが少ないので、何とか入っていただいて、子どもが活躍できると良いと思う。

○木村委員

この10年計画に参加できて非常に嬉しい。自分の10年先を思うと車に乗っていないのではないかと考える。コミュニティバスでも、可児市は飛び地があって、うちのところを通っているがそこでは乗せてもらえない。周りと連携した方が、公共サービスが効率も良くなるのではないか。

○横山会長

公共交通問題では、鉄道、路線バスの問題もある。実は、普通の人でも足腰が弱って、本当に移動に困る時代が来る。いろいろな自治体を回って思うのは、交通問題は自治体の問題の三本の指に入る。ところがそういう意識は、住民でも行政でも薄く、そこに対する予算もなかなかない。

○鍵谷委員

この審議会と平行して行われている行政改革推進委員会の流れと、総合計画は同じような流れでどこかで合わせていくべき。行政改革委員会は、11月30日に4回目の会議をした。

みなさんのご意見はもっともで、協働で進めることについては異論はないが、自分の経験からは60周年記念に町と議会が熟慮を重ねて実施した記念式典は大きな10年間のけじめとして、新しい若い世代の人達が御嵩町を良くしていこうという姿がはっきり示されたものと思う。御嵩町のすばらしいもてなし、常日頃のサークル、団体の関係があって形としてできたと評価している。

二つ目は、工業団地がほとんど埋まった環境の中で相当大勢の従業員が確保されている。ところが、御嵩町民が働くのが20%弱となっており、若い人達が御嵩町に住む環境に乏しいという指摘があった。若い人たちが御嵩に住まないということは、子育て支援をはじめ、保育、学校教育、成人教育の段階に御嵩町独自の政策があれば、可児市に住むよりも御嵩町から仕事場に通おうということになるのではないか。行政改革大綱に、もっと行政が見えるようにというご意見や、独自色を打ち出すべきであるというご意見があった。子どもが生まれたら補助しますというような、人口対策を進めて人口減少に歯止めをかけていく。総合計画の位置づけとしてももう少し御嵩町独自の、定住できる具体的な施策がないといけない。

安心して子供を産んで、保育園も無料までを打ち出すと、初めて若い人達が選択肢として居住地を御嵩町に求める。こういう課題を提起して方向付けるべきであり、総合計画はどこかに太いものがあると良い。

○横山会長

具体的なことは大事だと思う。子育て支援ということは、地方創生の総合戦略の中では、総合計画は10年のスパンであるが、地方創生は国の最重要な政策で、子育て支援は基本目標2に最重要施策として示されている。

なかなか良い総合戦略を作成されたが、総合計画の中に反映されている感じがやや弱い。

○猪野委員

キーワードにスポーツがどこかに入れればいいと思う。中学校のバレーボールの社会人コーチをやっているが、9歳から15歳までのゴールデンエイジでスポーツがうまくなる。そういう時期に行政とスポーツ少年団、部活動がタッグを組んでやっていけると、スポーツに活気が出て、若い子達も元気になるのではないか。

課題ではファンづくりということがあるが、もう少し具体性に欠けているのではないか。たと

えば、中学生がこれを見て、御嵩町はすごいなあ、大好きになれるというようなキャッチフレーズが入ればいい。中学生のアンケートもあるが、生まれ育った慣れ染んだ町という評価であるが、自慢のできることで、良いところがわからない。周囲の大人が取り組んでいる、目指すところが子どもたちには伝わっていない。子どもたちが具体的なことを思い浮かべてもらえればいいが、もう少し若い人たちに伝わるキャッチフレーズが入ってもよい。

○中島委員

基本構想があって、その下に基本計画、総合計画があるが、構想としては大きな方向、ビジョンということで問題ない。目標人口は実際もっと厳しいことになると思う。人口の下落を緩和するためには、保育園の無料化のように、新聞の見出しになるような計画を入れるのが良い。

○可兒委員

御嵩町の課題として挙げているが、高齢者の働く場、体力を維持する、働く場、介護も含めて、少し欠けている気がする。もう少しそういう点を入れて、健康でいられること、健康であれば集える場所、仕事や、介護の問題を少し入れる必要がある。

この5つの柱は基本構想であるため、細かいところはこれからの問題であるが、これらをどうつなげていくのか。参加のまちづくりから協働のまちづくりということで、どのようなかわり方をしたら良いのか事例も参考にして、もう少しやっついていかないと協働のまちづくりという字句のみになってしまう。

○平井委員

まちのめざす姿というキャッチコピーがあって、5番目を一番強く言わなければならないと思う。「暮らしてみたくなるまち」ということで、人が移住するという魅力的な町の姿という締めとなっていると思う。右側には、垂炭鉱、治山治水対策、その下は景観の維持などであり、これが暮らしてみたくなるまちの個々の項目になり得るのか。誰をターゲットにしてどのような方法でどこからというような具体的アプローチが必要である。若い子育ての世代、就学前の人がどこに定住しようと考えて住んでくる。ターゲットを明確にすれば、おのずと暮らしてみたくなる方策を考えていくことができる。それが女性の働きやすさであったり、教育、仕事、子育て、女性がキーワードになる。

協働のまちづくりということで、戦略的なしくみづくりというご意見があった。戦略的に考えていく必要があり、ソフトも作りすぎると疲弊するので、スクラップアンドビルドしていく必要がある。仕組みだけたくさん作ると、活動する人達のモチベーションが下がる。これに注意しながら進めていくべきである。

○横山会長

私は事業仕分けを手伝っているが、これからやっていくべきか、廃止すべきか、行政内部の職員では言いづらい。それを外部の人を入れて検討している。限られた材料の中であれもこれもとはいかないので、スクラップアンドビルドの考え方が大事である。

「暮らしてみたくなる町」が、キャッチコピーとして最もふさわしいのではないかと。タイトルがあって、副タイトルがあってという考え方もあって良い。

○谷口鈴委員

一番気になっていたのは、10年先に向けての戦略的な町としての特性が出ていないことである。

協働と言うと、たとえば大学と企業の産学共同は一つのテーマをもって、協働でフィフティ・フィフティの関係で一つのものを目指している。住民と行政との間の中に、構想や共通の目標もない中で協働は成り立つのか。今まで、行政が住民に対して奉仕を求めてきただけである。本当の協働という言葉を使いたいなら、地区がそれぞれの特性を生かすために、権限を付与して、そこから吸い上げていく提案型の町の政策の作り方が必要である。基本構想の中には、そのシステムが出ていないのできわめて残念である。

この10年間で、何を目標にして何をやるのかということについて、少し焦点がぼけている。

○横山会長

私も同感であり、次の基本計画のところでも、しっかりご意見をいただきたい。

○岡本委員

地域の中で教育、子育て、福祉についても、環境についても、住民の中でいろいろな動きがあったり、具体的に動きたい人達がたくさんいて、そういう人達とどうやって一緒になって地域の人材、資源をどう生かしていけるのか考えながら資料を見た。もう少し、そういう人達をもっと生かしていこうという支援を打ち出すと良い。

総合戦略でも人が元気など、人がキーワードであり、地域の人材を行政が生かして、任せるところは任せて、がんばっていこうということを出すと良い。

○横山会長

キャッチコピー、タイトルは少し工夫がいる。この案の分野やキーワードはおおむねご了承をいただいた。その方向性に向かって、次の実際の計画を入れていかないと、議論にならない点があったので、素案であるが、ご意見をいただきたい。

○企画課企画調整係長高木

(資料3 の説明)

○横山会長

全部説明していると時間がない。ここに出揃っているのは全てではなく、こういう形で基本計画を作っていこうということですね。具体的な施策の方向性について、ご意見をいただいた方が良い。みなさんの思うところをご発言いただきたい。

参考までに、6ページの生涯学習の現状と課題で生涯学習団体の状況とあるが、昔は社会教育推進計画などが作られたが、独自の計画が作られなくなっている状況にある。スクラップアンドビルドの中で、これから必要になる指針、ビジョンはつくるべきである。こうした計画をつくることも基本計画に示すべきである。

指標として生涯学習講座、イベントの参加者が示されているが、そういうものでは不十分であり、質が問題である。こういう人達その後、どういうまちづくり活動につながっていったのか、そういう指標を書くように担当課が考えていってもらいたい。

○水野委員

中山道ウォークの実行委員長を務めているが、指標のように、今回何人参加してなど苦慮しながら実行をしている。時代とともに参加者が高齢化して、参加人口が増えない。すばらしい基本計画であるが、イベントをやる程、おそらく参加人員が少なくなり衰退する。イベントを行うのは良いが、御嵩町に来れば何かあるぞ、それが見つかれば基本計画はそれに沿っていけると思う。

イベントに参加する人口が増えてこない時代になっており、いろいろな方向性をどうやって絞っていくかが一番問題である。

○谷口清委員

成果目標は個別に挙げるべきである。これだけ計画がたくさんあって、5年後に見直すのも大変なことと思う。数字のための数字になると本末転倒であるが、入れるべき指標は入れる。

事業仕分けの話が会長から出たが、その発想を審議会で聞いたことがない。協働の背景は限られた行政の事情、町民の将来人口、高齢人口の増加の中でサービスができないから、協働という発想と理解していた。確かに総合計画はあらゆる方向を向いてやるべきであるが、何に力を入れるのかフレームができると、より絞ることができる。

○横山会長

ご指摘のとおりで、成果指標を盛り込むことは自治体でまちまちで、国も客観的指標を強く求めており、全てが数値では測れないが、ある程度の成果を客観的に示す方向である。しかし、ご指摘のように数字のための数字ではなく、意味のあるものを考える必要がある。

協働についても、事業仕分けにおいては、協働でやるか、廃止、民間でやるのかを検討することが本来のもの。行革の面と市民が参加することによって、市民の幸せ度、満足度が向上する面があり、両方を満たすことが協働であるべき。

○田中尚委員

笑顔がつながるみどりがあふれるみんなが輝くみたけは良いフレーズである。しかし、緑があふれているのは大都市以外で見ることができ、御嵩にしかない、特徴のある緑、方向性の中で形づくっていくものではないか。たとえば、赤松とか町の木、たとえばLEDがはやりで照明に使っている町もある。同じように緑があふれるとなれば、よそにないような緑というもの、御嵩のものを方向性で示したらどうか。

○田中絹委員

御嵩の人は人柄が良いことが宝と思う。6ページで地域において外国人と交流している割合が示されているが、私が世話しているベトナムから来ている女性が畑をつくっている。畑を提供してくれるおじいちゃんやおばあちゃんがほとんど手伝っており、そういう子達がおじいちゃん、おばあちゃんを先生、先生と言っている。そういう姿は、ほほえましく、御嵩ならではの、できることである。

講座の後の展開という話があったが、婦人の会は生涯学習課でいろいろなことを提案している。絵手紙教室は年々子どもが書く枚数が増えており、今年は2千枚以上資料館に展示された。そういうことを通じて御嵩の中の人と人との交流をつくることを見逃してはならない。

○草田委員

成果指標は目標として必要であるが、その目標値に対してどうしていくのかが課題である。現状と課題の中にあるプランはびんと来ない。実行する人とかが出てくるのがわからない部分がある。そこあたりをどうしていくのか。

○木村委員

御嵩町も個人のお店が少なくなっていくのは少しさびしい。よその町村も同じような感じのところもある。自分が60~70代になる時は、若い方々がどんどん開業されると良いが、廃業され

る方も多くなるであろうから、寂しくなる。

○鍵谷委員

先ほど意見は申し上げ、また、委員の皆さまのご意見にも同感である。あとは一生けん命がんばっていくことになれば良い。

○猪野委員

いろんな方向性を求めている人に満足度をどう上げていくのか。皆さんのご意見と同様、目標を数値として示すことは重要になる。こうしたいろんな方向性について、役に立つのか満足度を上げていっていただきたい。

○中島委員

行政と住民がやるイメージが出てこないの、もう少し協働ですることのイメージを。

○横山会長

現計画では、協働の取り組みが示されている。その視点をもう一回、盛り込んでいただきたいということである。

○可兒委員

これに対する肉付け、どういうふうに進んでいくか。農業では担い手の確保などが示されているが、担い手の養成は至難の業である。中間管理機構を通しての地域営農組織、新規就農者の支援についても示されているが、この地区で担い手をどう養成していくのかということ、かなり難しい。担い手がそれなりの収益が上がる状況にしていけないと難しい。

御嵩町の旧4町はそれぞれ異なり、さらに西濃と比べると御嵩町の一つの圃場は10分の1の広さで、経費的にも勝てない。地産地消というか、特色のある物を作らないと、お米で勝負することは無理。技術的なことを織り込んで、特産を考えていく必要がある。単に担い手を確保すると示しても難しい。どう進めていくのか、町、農業委員会にとっても難しい問題であるが、みんなで知恵を絞っていく必要がある。

○平井委員

成果指標を入れることは必要であるが、それぞれの数値目標は計画の達成度、住民の満足度、ただの結果であったり、施策を同じ評価するのは難しい切り口で指標が挙がっている。

たとえば3ページの豊かな自然環境を求めて御嵩町にやってくる移住者の受け入れを促すと示しており、豊かな自然環境を求めて入ってきた人なのかどうか。信託契約を結ぶ民有林ということであるが、民有林はそれぞれ間伐をやっている人もおり、信託契約を結んでいる民有林のみではない。生徒の学力、こういうことをどういうふう公表するのかは教育委員会でも悩んでいることである。成果指標を役場の中での担当セクションで聞いたものか、企画課の案なのか。

○横山会長

事務局で説明を。

○川上企画課企画調整主任

成果指標はたたき台であり、各課に照会している。各課でいろいろな計画や方向性を踏まえて、総合計画の10年間で何を指標にするか、担当課が検討しているところである。その結果は、1月

中旬にみなさんにお示しできる。

○平井委員

基本計画は今行政やっている施策を示している。行政は継続性があり、向こう10年間でどう進化させていくのかということでこういう形のもので出てきたいと思っている。

成果指標は、都市計画審議会や行政改革推進委員会でも数値目標を取り入れるべきと、かなり議論されてきた。総合計画でも基本計画においては、成果指標の目線を変えて成果指標ということで提案されたものと思う。成果指標が難しいのは、どこまでいったら良いのかという完成度がない。進捗状況を公表していただけということになっている。

それよりも大事なものは、現状と課題の中で、住民と行政が協働で成し遂げられる事業を強調していかないと、最新の基本計画のタイトルと現計画との整合性が薄れる。

○岡本委員

成果指標はたとえば、方向の3-1、2で「地域福祉の担い手の育成」の言葉が出てくるが、成果指標ではボランティア団体とある。担い手として、どう行政が人づくりを進めてきたのか、協働と示している中でどう協働が進んだのか。ボランティアの人数など、結果だけを見ることになる。

2-1でも公民館サポーターの数、子ども教室の参加者とかに絞ると、協働がどう進んでいるのか見にくい。協働ということをやったって計画を立てるのであれば、そこが評価されていく項目がもう少しないと、実際5年後にどうだったかと評価しにくいのではないかと。

○横山会長

成果指標について予想以上にご意見をいただいた。私も行政評価の委員を務めており、皆様のご意見のように質の面でどうなったか評価をいただかないと意味がない。その点もぜひ、企画課から各課に伝えていただいて、各課で指標を再検討いただきたい。

少し時間があるので、総合戦略などを事務局で説明いただきたい。

○川上企画課企画調整主任

(資料4、資料5の説明)

○横山会長

時間も来ましたので、少しまとめます。田中委員。

○田中尚委員

2ページが一番上、方向性4-1、2の地域資源を生かして観光魅力を向上、地域の魅力を効果的に発揮するとあるが、先日、願興寺の秘宝開帳が行われ来た人が感動したと聞いており、遠方からも来訪者があった。定期的の開帳していただければ、願興寺の負担する改修費も確保でき、町の財政負担も少なく一石三鳥となる。御嵩町を売り込む観光資源として大きくうたってほしい

○横山会長

この後、今後のスケジュールの説明があると思うが、次回は2月開催であり、今日のご意見を事務局で修正をいただくとと思う。随時委員の皆さんにメール等で連絡させていただく。どうもありがとうございました。

4. その他／5. 閉会

本日は、いろいろな意見をいただきありがとうございました。
今日いただいた意見、パブリックコメント、庁内の意見も内部でつめて、もう一度、2月ごろに委員に諮りたいと考えております。
そこでほぼ良ければ、当初の計画をもう1回増やして、3月ぐらいに答申ということにしたいと思います。いきなりこの素案のまま進むのは難しいと思いましたので、スケジュールを修正させていただきます。
次回につきましては、後日ご案内させていただきます。
まずは、今日の素案でもって、住民の意見も聞かさせていただきます。
本日は、ありがとうございました。

以上

